

異学年集団による学習の成立に関する研究

学習臨床コース 学習過程臨床分野 135015C 木下 潤児

【要約】 本研究は、小学校での異学年集団による授業（総合的な学習の時間）で見られた子どもたちの会話や行動をVTRとテープレコーダーによって記録し、異学年集団による学習がどのような過程で成立していくのかについて分析した。上学年の downstream の子どもに対する関わり方を分析すると、上学年の子どもは、downstream の子どもからの応答を意図した問いかけという言葉がけを用いて関わりるとともに、downstream の子どもの実態に合わせた行動で学習を進めていたことが明らかとなった。

【キーワード】 総合的な学習の時間 異学年集団 会話 行動 協同的な学び

研究の背景と目的

『小学校学習指導要領総則編』^①には、総合的な学習の時間の実施にあたっての配慮事項として、多様な学習形態の工夫を積極的に図る必要があることが示され、その学習形態の一つとして異学年集団による学習が例示された。異学年集団による学習は、これまでの学年を単位とした教科学習とは異なり、生活経験や学習経験に大きな違いが見られる子どもたちによって行われる学習^②である。

この学習を総合的な学習の時間に取り入れるにあたっては、異学年の子どもたちが互いにどのように関わり、どのような過程で学びをつくり上げていくのかについて分析し、この学習の持つ意義を明らかにする必要がある。

そこで、本研究では、実際に総合的な学習の時間に異学年集団による学習を実施し、子どもたちの相互作用の過程を観察することを通して、そこで見られる会話や行動が、どのように展開され、学習の成立にどのように作用しているのかについて明らかにする。

研究の方法

(1)調査対象

長野県内の公立小学校
5年生36名 3年生36名

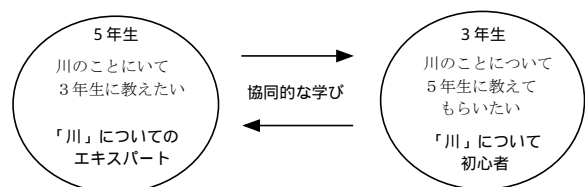
(2)調査時期

2001年：8月～10月

(3)手続き

総合的な学習の時間において、5年生と3年生による異学年集団による学習を計画し実施した。この学習は、5年生が生活・理科・社会及び総合的な学習の時間に題材として取り上げ^③関わってきた学校の横を流れている川（野底川：のそこがわ）について、これから学習を

始めようとしている3年生に教えるというものであった。



第1図 異学年集団による学習の構造

①異学年集団のつくり方

この学習における異学年集団づくりは、5年生が3年生に教えたいテーマごとにグループをつくり、3年生が参加を希望するグループを選択することによって行われた。この学習では、川で見られる金雲母を探すグループ、水棲昆虫を見つけるグループ、川で見られる岩石について調べるグループなど全部で13のグループができた。

②単元展開の概略（5年生）

第1次 (4時間)	川のことについて3年生に教えたいことを決め、活動計画を立てる
第2次 (1時間)	3年生にグループごとの活動内容を紹介する
第3次 (2時間)	活動する場所の下見や準備を行う
第4次 (3時間)	3年生と川に出かけ活動を行う
第5次 (2時間)	学習を振り返り、まとめる

③5年生と3年生との関わり

同じ学校で生活している子どもたちであるが、学年や校舎が違うこともあり、日常的な交流はほとんどなかった。この学習を通して、初めて顔を合わせた子どもも少なくない。5年生、3年生とも異学年と行う一緒に学習は初めての経験であった。

④調査の方法

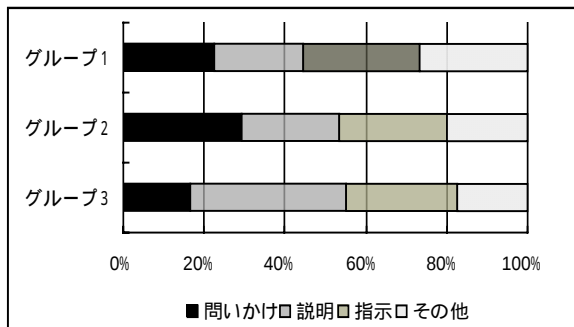
5年生と3年生が初めて川に出かけ活動する場面の活動開始から終了まで（3時間）の子どもたちの行動と会話をVTR及びカセットテープレコーダーによって記録した。調査対象としたグループは、13の異学年集団の中から無作為に抽出した3つのグループである。

結果と考察

(1) 5年生の3年生に対する発話から見た学び

① 5年生の3年生に対する発話の分類

異学年集団による学習で見られた5年生の3年生に対する発話内容について、白石・武元・一條（2000）⁽⁴⁾らが作成したカテゴリーを参考にして分類した。その結果、5年生は3年生に対して説明・指示といった言葉がけに並んで、3年生からの応答を意図した問いかけという言葉がけを多く用いて、関わっていることがわかった。



第2図 5年生の3年生に対する発話の分類

② 問いかけの分析

5年生から3年生に対する問いかけは、川での行動を教える場面（堤防や堰堤の上り下りや川での歩き方）グループの活動について教える場面（金雲母の探し方・水棲昆虫の見つけ方等）で多く見られた。これらの場面で、5年生は3年生の活動への関わり方を観察し、問いかけの言葉がけを用いながら、川での行動が安全にできているかを確認したり、教えたことが3年生に理解されているかを確認しながら、学習を進める姿が見られた。



第3図 3年生に金雲母の探し方を教える5年生

以下に示す事例は、5年生が3年生に金雲母の探し方を教えている場面のものである。

5 A : 5年A児 3 Y : 3年Y児を表す

5 A : あった？ [問いかけ]

〈3 Yの方を向いて〉

5 A : ああ、そういう大きな粒のところにあるかもよ。

3 Y : あっ、あった。

5 A : あった？ [問いかけ]

3 Y : ほら、おお（大きい）

〈5 Aに金雲母を見せて〉

5 A : あっ、ほんとだ。

〈3 Yの差し出した金雲母を見て〉

(2) 5年生の3年生に対する行動から見た学び

この学習で見られた5年生の3年生に対する行動を調べると、5年生は3年生の行動を観察し、3年生の実態に合わせながら学習を進めていることがわかった。具体的には次のような行動がなされている。

- ・ 体力的な支援として、手を引いてあげる、押してあげる、先頭と後部から見守るなどの安全面に配慮している行動
- ・ 言葉がけの行動として、近づいて言葉をかける、視線の位置を合わせて話す、腰を低くして話すなどの思いやりの行動

今後の課題

3年生から5年生に対する発話や行動について分析し、下学年から見た異学年集団による学習の意義について明らかにしたいと考えている。

引用・参考文献

- (1) 文部省（1999）. 小学校学習指導要領第1章総則第3の5
- (2) 片上宗二・木原俊行編著（2001）. 新しい学びをひらく総合学習 pp.186 ミネルヴァ書房
- (3) 小金澤孝昭・笹川耕太郎・青野壽彦・和田明子編（2001）. 地域研究・地域学習の視点 PP. 320~328 大明堂
- (4) 白石敏行・武元英夫・一條孝夫（2000）. 幼児に対する教師の言葉かけに関する研究 宮城教育大学研究紀要第35巻
- (5) 平野朝久編（1999）. 総合的な学習の多様な学習形態を工夫する 教育開発研究所
- (6) 成田國英（1996）. 「生きる力」を育てる異年齢集団活動の展開 明治図書
- (7) 三原茂（1999）. 異学年合同による「総合的な学習」に関する研究 富山大学大学院修士論文（木下 潤児：tomopuu@db3.so-net.ne.jp）